

第2回 横浜市少年自然の家第5期指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和5年8月17日(木) 14時00分～17時20分
開 催 場 所	市庁舎18階さくら15会議室
出 席 者	松葉口委員長、青柳委員、一瀬委員、川本委員、辺見委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部非公開(傍聴者0人)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員会の公開・非公開について</li> <li>2 財務状況について</li> <li>3 納税状況等について</li> <li>4 面接審査(プレゼンテーション及び質疑)</li> <li>5 指定候補者協議</li> </ol>
決 定 事 項	公益財団法人横浜市スポーツ協会を指定候補者として選定
議 事	<p>開会后、事務局から出席委員の確認及び応募状況の報告を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員会の公開・非公開について 面接審査までは公開、指定候補者協議から非公開とした。</li> <li>2 財務状況について 応募1団体の財務状況は「健全である」との結果が報告された。</li> <li>3 納税状況等について (事務局) 応募団体について、市税の滞納者ではないこと、横浜市暴力団排除措置対処に該当しないことを確認し、欠格事項に該当しない旨を報告。</li> <li>4 面接審査(プレゼンテーション及び質疑) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 南伊豆臨海学園について、応募1団体より15分のプレゼンテーション後、45分の質疑応答。 (委員) 学校へのPR方法は具体的には何を考えているのか。 (団体) 小学校の校長先生と連携を図り、DVD、施設の冊子を使いPRしていく。また、先生向けの体験会を現地で開催することで、施設の魅力を知ってもらい利用を促していく。 (委員) 令和6年度から令和10年度の見通し人数に対して、収入増加が少ないと考えるが、なぜなのか。 (団体) 市立小学校の利用の際、光熱水費は無料のため利用が増加しても収入増加に直結するわけではない。 (委員) 固定費の削減をもう少しできないか。 (団体) 人件費の削減が難しい。最低賃金が年々増加していることに伴い、委託費の人件費が増加している。無駄なところは省く努力は続ける。 (委員) 是非ともそうしていただきたい。そうしてできた余剰で、施設の修繕にあててほしい。</li> </ol> </li> </ol>

(団体) 必要な修繕を進めていき、市教委とも連携を図っていく。

(委員) 自然の体験ができてとても魅力的な施設。現在子どもたちには体験学習だけ教えているのか、その先の日常につなげることを伝えているのか。

(団体) 体験学習の内容を主に伝えている。

(委員) 先生にその先につながる話を任せるとなると負担が大きいと考える。どういう学びができて、どういう成長ができ、それがどのように日常に直結するかを施設側から伝えることができれば、もっと利用したい学校が増えるのではないかと考える。

(委員) 実際に子どもたちと触れ合って何を感じるか。

(団体) 子どもたちにとって初めての体験を提供できていることに喜びを感じる。いずれ親になり、自分たちの子どもたちに同じ体験をしてもらいたいと思える施設にしていきたい。

(2) 赤城林間学園について、応募1団体より15分のプレゼンテーション後、45分の質疑応答。

(委員) 先生に体験会を行ってもらったとあるが、どのようなものか。

(団体) 新任の先生を対象に研修会を実施した。2日開催をして、合計320名の先生に参加していただいた。その中で、話を聞くものと違い、実際に施設見て、新たな発見があったと感想をいただいた。

(委員) 体育館については、今後どのような利用方法で進めるのか。市内だけでなく、近隣の学校で利用促進をするのか。

(団体) 現在は、キャンドルファイヤーをするほか、雨天集会場として利用している。近隣に迷惑がかからないため、吹奏楽の部活利用がある。そういった部活動の利用も促進していきたい。

(委員) ユネスコエコパークとの連携は可能なのか。

(団体) 深い連携は、地域の学校でしかできないため踏み込めない。しかし、一般でも参加できる部分があるため、可能な範囲でアプローチしていく。

(委員) 野外炊事用の食事に記載がないものはあるのか。

(団体) 地元の料理は、特別料理としてお肉など使える。

(委員) 郷土料理は使えないのか。

(団体) 焼きまんじゅうを体験できないか検討中である。

(委員) 魅力的な施設で自然学習の幅が広いが、一番のターゲットはどこか。

(団体) 市内の小中学校を想定している。

(委員) 自然学習、体験だけでは選んでくれなくなった。対策は何か考えているのか。

(団体) 中学校の利用が昔に比べて減っているため、部活などをアピール材料にPRしていく。また、安価な費用で魅力的な体験ができることもア

ピールしていく。

5 指定候補者協議

5名の委員により評価項目に沿って評価を行った。その結果は以下のとおり。

(1)南伊豆臨海学園

公益財団法人 横浜市スポーツ協会：78.6点

(2)赤城林間学園

公益財団法人 横浜市スポーツ協会：79点

※点数は委員5人の総合点の平均点。

<主な講評>

- ・両施設とも共通して距離が遠いため移動時間がかかる。それに加えてコロナにより県外移動の制限、教員の負担軽減が進み、長期の宿泊学習が難しくなっているのではないか。これからどれだけの学校がまた利用したい、新規に利用したいと思えるか。
- ・横浜市内、もしくは近隣で同様な体験学習が代替できてしまう。この2施設でしかできない経験を学校にアピールして行ってほしい。
- ・体験学習自体が今後どうなっていくのか。一泊二日の学校もあれば、二泊三日の学校もある。市立学校であれば、平等になってほしい。前のような行程になれば、両施設の利用も増えるのではないか。
- ・バーチャル体験が進む社会で、実体験ができる学習が減っている。体験学習の重要性を伝えていき、横浜の子どもたちに魅力的な施設を体験してもらいたい。
- ・両施設とも収支計画を堅実に考えられているが、コロナ前から利用者は減少傾向にあり、検討することは多々あると思う。